ドイツ国際交流員から見た
姉妹都市交流

名前　オリヴァー・クリスティアン・ギール
出身地　ドイツ　ミュンヘン市
大学　ミュンヘン大学卒業。
高校、大学時代に日本に語学留学。

2019 年 8 月～ 2023 年 8 月まで国際交流員として勤務。

―姉妹都市提携 50 周年事業を振り返って

1972 年から 50 年、私はミュンヘン出身者として札幌で姉妹都市提携の半世紀を祝う栄誉に浴し、国際交流員として祝賀行事に貢献することができました。振り返ってみると、2022 年と 2023 年は両都市の交流が活性化した実りある年でした。しかし、2022 年半ばまでは、新型コロナウィルスの大流行によってイベントや旅行の計画を立てることが難しく、このような事態は予見できませんでした。

幸いなことに、2022 年 7 月にミュンヘンで開催された日本祭りに間に合うように、札幌国際プラザの職員と初めての出張に出かけることができ、札幌の代表として姉妹都市提携 50 周年を故郷のミュンヘンで宣伝することができました。ミュンヘン出身の私にとって、これはもちろん特別なことであり、ことに秋元市長の挨拶を代読することができました。また、札幌の四季や名所をビデオで紹介し、アイヌ文化も紹介することができました。これは、ミュンヘン市の職員が写真撮影コーナーと無料のビールを用意したブースのすぐ隣で行いました。どちらのブースにも多くの方々が訪れ、多くのミュンヘン市民が札幌に強い関心を示していました。バイエルン独日協会とミュンヘン市のおかげで、2023 年の日本祭りでも札幌のグッズを提供することができ、2024 年にもバイエルン独日協会が札幌を代表して姉妹都市交流を促すことを予定しています。

こうして幸先の良いスタートを切った私は、9 月に 2 度目のミュンヘンを訪れることができました。今回は秋元克広市長とともに、オクトーバーフェストの開会式にミュンヘン市のディーター・ライター市長から招待を受けました。また、姉妹都市提携 50 周年を記念して、ミュンヘン市は記念式典を開催し、ミュンヘンの日独コミュニティの要人が多数出席しました。ここでの特別なハイライトは、秋元市長がミュンヘン市のゴールデンブックに掲載されたことです。これは通常、国王や大統領にのみ許される特別な栄誉です。

オクトーバーフェストでは、ミュンヘンの重要人物と意見交換をすることができました。その中には、市首長、市議会議員、オクトーバーフェストやミュンヘン醸造所の経営者などが含まれていました。

滞在中、オリンピック公園にも招待され、ミュンヘンのオリンピックの歴史について詳しく学びました。1972 年にミュンヘンと札幌で開催されたオリンピックが姉妹都市提携のきっかけとなったことはよく知られています。2022 年にも、両都市はオリンピックを再び招致するかどうか熱く議論していたこともありました。

11 月、札幌市経済観光局の職員とともに 3 度目のミュンヘンを訪れました。今回はミュンヘン市のクリスマス・マーケットでの札幌ブースの準備に携わりました。日本酒、コーンスープ、ビーガン昆布だしなど、そこで販売された札幌の商品はあっという間に売り切れました。ここでも大成功を収め、札幌は 2023 年に再びミュンヘンのクリスマス・マーケットに参加することになりました。2022 年の滞在中、私は札幌へのテレビ中継用のビデオ素材を準備し、クリスマス・マーケットから生中継でリポートすることにもなりました。

また、2023 年 6 月には、札幌市からの招待を受け入れ、ライター市長が率いる市議会議員団が訪問してくれたことは、私たちにとって大きな喜びでした。この訪問では、ミュンヘンの来賓の方々に大倉山ジャンプ台、オリンピック博物館、藻岩山をご案内し、札幌の新鮮な食材を使った様々な料理をご紹介しました。そして印象的な「YOSAKOI ソーラン祭り」では、踊り手のダイナミックな表現力を印象づけることができました。

前日は、札幌市の記念式典が開かれ、ミュンヘン市の一部の来賓が民族衣装で登場しました。そこで、札幌南高等学校の書道部活による芸術的なパフォーマンスは、特に印象的でした。

―国際交流員の仕事を経て

振り返ってみると、札幌での最後の 1 年半は私にとって仕事上、特に重要な時期でした。しかし、新型コロナウイルスの影響にもかかわらず、それ以前の数年間にも楽しい思い出がたくさんあります。多くの講演で（対面でもオンラインでも）、私は何百人もの札幌の生徒や学生、その他の市民にドイツやミュンヘンを紹介し、多くの方々にドイツへの留学や研修、あるいは単に旅行への興味を喚起することができました。

市民との交流に加え、同僚との交流も私にとって非常に貴重なものでした。何年も一緒に働き、多くのプロジェクトを経験する中で、同僚たちとの絆がいかに重要で強いものであるかを学び、今では彼らの多くを友人と呼ぶことができます。私はまた、オフの時間に彼らの多くと一緒に時間を過ごしたが、その経験を一つ一つを挙げるとこの記事の範囲を超えてしまうでしょう。しかし、私のスマートフォンに入っているたくさんの写真や動画が、美しい自然や 札幌を中心としたたくさんのイベントでの友人たちとの経験を物語っています。

札幌、そして北海道は、4 年間で出会った多くの素晴らしい方々、そして数々の素敵な思い出のおかげで、日本における私の故郷のような存在になりました。

今もこのつながりが続いていることを非常に嬉しく思います。次に第二故郷の札幌に帰省すること、そして元同僚や友人たちとの再会をすでに心待ちにしています。

―今後の札幌とミュンヘンの交流について

次の 50 年もさまざまな事業や交流を通して両市の友情関係がさらに深まることを願っています。今後も、ミュンヘンで両市の架け橋となるよう努めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

Bis bald und auf Wiedersehen!